

授業科目名	経済学の最前線チュートリアル
科目番号	BA91042
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋学期応談
担当教員	経済学主専攻全教員
授業概要	「経済学の最前線」の各回内容に関する質疑応答と討論を通じて各自の問題関心を深め、進級後の研究テーマを探究する。また、その研究テーマを追究するために効果的な進級後のカリキュラムの組み方について指導助言をおこなう。
備考	今年度の「経済学の最前線」を履修中であること。原則として1年次生のみ履修可。総合学域群生の履修を優先するが、定員に満たない場合は、社会・国際学群 他学群の優先順位で、他学群生の履修も認める。履修希望者が定員を上回った場合は選抜をおこなう。定員、履修条件、選抜方法、開講日等の詳細はシラバスを参照のこと。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1. 汎用コンピテンス:コミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、広い視野と国際性に関連する。 2. 専門コンピテンス:社会科学的な表現・議論に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	1. 経済学の基本的な考え方の理解を深めることができる。 2. 経済学の現代的な応用例について知見を広めることができる。 3. 進級後の自らの研究テーマを設定し、それに合致したアカデミックキャリアを構想できる。
授業計画	1) 10月13日(水): ガイダンスを行います。 2) 10月20日(水): 経済学の考え方についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 3) 10月27日(水): 現代の革新的中小企業についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 4) 11月9日(火): 現代の革新的中小企業について理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 5) 11月17日(水): 開発経済学についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 6) 11月24日(水)(変更の予定あり。担当教員の指示に従うこと。): 開発経済学についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 7) 12月1日(水): 「マルクス経済学の錯誤について(1)」についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 8) 12月8日(水): 「マルクス経済学の錯誤について(2)」についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 9) 12月15日(水): 経済史についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 10) 12月22日(水): 経済史についての理解と関心を発展させるため、チュートリアルとディスカッションをおこなう。 11) まとめの発表会(秋Cに予定) これらの他にゲストスピーカーによる講演が予定されている。

履修条件	「経済学の最前線」を履修中の学生に限る。年度末に行われる最終発表会等への参加を推奨する。定員は15名程度を上限とする。履修希望者は、9月27日（月）までにTWINSで登録を行うこと。総合学域群生、社会学類生、国際総合学類生の順で優先し、定員に達しない場合は他学群生の履修も認める。履修希望者が定員を上回る場合は、くじ引きによる選抜を行う。選抜結果を9月30日（木）までに通知する。
成績評価方法	以下の成績評価方法は暫定的なものであり、変更の可能性がある。 授業の参加度（授業内発表（10分程度）の内容を含む）：50点 ポスター：50点
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	年度末に行われる最終発表会等に積極的に参加すること。授業での発表準備、最終発表用ポスターの作成等を行うこと。
教材・参考文献・配付資料等	各回の担当教員が授業中に個別に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	授業中の各担当教員からの指示に従ってください。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	経済学分野に関するさまざまな学問的アプローチに対する知的好奇心をもって受講してください。 総合学域群生にとって本科目を履修していることが進路決定において優遇される、という制度上の措置はありません。また、本科目の履修の有無が下記の専門導入科目の成績に有利に働くことはありません。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	学類3・4年次生のSAを配置する。
キーワード	ミクロ経済学、ゲーム理論、経営学、開発経済学、経済思想、経済史